

【佳作】

「北方領土が加わったTシャツ」

北海道教育大学附属札幌中学校

2年 荻野 真緒

二〇一八年八月、私は北海道の地図と共に北方領土が大きく背中に描かれたTシャツを着て、北海道代表として、算盤の全国大会に出場した。

正直な所、今まで北方領土をあまり身近に感じたことはなかったが、Tシャツの背中の真ん中に大きく描かれた北方領土を見ると、北方領土が同じ日本なのだということを強く感じた。

北方領土と辞書で調べると「現在のロシア連邦が実効支配をしている択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の島々」と書いてあった。

更に、実効支配という言葉の意味を調べると「ある国や勢力が対立する国や勢力、あるいは第三国の承認を得ないまま軍隊を駐留させるなどして、一定の領域を実質的に統治していること」と書いてあった。

日本とロシア連邦は対立しているのだろうか。ニュースでは、ロシアの大統領と日本の首相が仲良く映っている映像をよく見かける。

第二次世界大戦が終戦となってから、既に七十三年の月日が流れた今もなお、この北方領土問題が解決していないことが、私は不思議でならない。

北方領土について考えていると、一つの疑問が浮かんできた。それは、今現在北方領土に住んでいるロシア連邦の人達は、北方領土問題をどのように考えているかという事だ。

日本人の私達が北方領土問題を考える時、思考の根底に、日本が被害者で、ロシア連邦が加害者という思いがある気がしてならない。被害者と加害者という認識を一度捨てない限り、この問題は解決しないのではないか。

ロシア連邦の政府の考えではなく、実際に北方領土に住んでいる人々は、どう思っているのか、どういう解決が一番良いと考えているのかと言う事を知った上で、お互いにとってベストな道を探していくのが解決の近道なのではないかと考える。

終戦から七十三年経っているということは、北方領土で生まれ育ち、北方領土で亡くなった方も多くいるだろう。北方領土に住む方々の心を掴む事が解決の鍵になると私は考える。

私が今年の大会で着たTシャツには、北方領土が間違いなく描かれていた。北海道代表の「北海道」には、今現在そこに住んでいる人達も含まれている。

北方領土問題には社会科で学んだ排他的経済水域の問題をはじめとする、私が想像できないような難しい問題もあるだろう。しかし、この問題を解決しなければ、両国の心のモヤモヤは消えることはないのではないか。前例にとらわれない、世界が驚くような解決法で両国の絆を深めてほしい。

いつか北方領土で算盤の全国大会が行われる日が来ることを心から望む。その時は今年着た北海道チームのTシャツを着て必ず応援に行きたい。